

政府は、コメの増産方針を打ち出した。千葉県では、立地の良さや空港機能の強化などの特色を活かした「強い農業づくり」を進めたい。

政府は、コメの生産を拡大する方針を打ち出した。昨年来続いていたコメ不足と価格高騰について、需要を見通せず生産量が不足していたことが要因だとして、増産に舵を切るとともに、耕作放棄地の拡大を食い止め、増産の出口として輸出の拡大を図るとしている。もっとも、生産調整は1970年頃から続いており、この間、農家数は減少し、高齢化も進行したほか、気候変動の影響が深刻化するなど、増産への転換は容易ではない。

千葉県におけるコメ農家も含めた農業従事者数¹は50,328人(2020年)。30年間で約6割減少した(▲58.3%)。そのうち65歳以上の従事者が67.0%と、高齢化が進んでいる(図表1)。特に県南部を中心とした中山間地域では、高齢化率が約8割(77.9%)に達する状況にある。

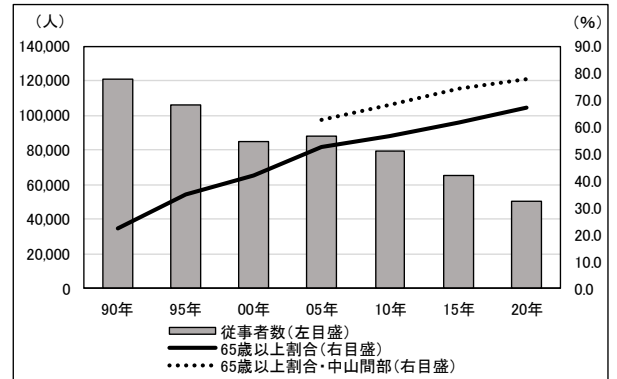
一方、農業経営を行う法人は増加している。農地を所有して農業を行うことのできる「農地所有適格法人」の数は、2016年の資格要件の緩和以降、全国的に右肩上がりとなっている。千葉県でも、全国を上回る勢いで増加している(図表2)。消費地に近く、スーパーや外食への流通網を作り易い首都圏にあって、自然が豊かなうえ、相対的に土地が安価なことなどが背景にあるとみられる。

農業産出額全国第4位を誇る千葉県は、道の駅など交流拠点の多さや道路交通網の整備進展などから、農産物直売所の販売額は全国一であるほか、観光農園、農家レストランの販売額もトップクラスにある(図表3)。さらに、本格化する成田空港の機能強化は、県産農産物の輸出促進の追い風となる。

千葉経済同友会が2024年に実施した県民向けアンケートでは、2050年の千葉県に期待する地域の姿として、「豊かな自然が守られ、都市の近くで自然環境と親しめる地域」が最も多く、「海と大地の恵みを活かした、農林水産業に強い地域」が続いた(図表4)。自然や立地に恵まれた千葉県の農林水産業に多くの県民が将来性を感じている。

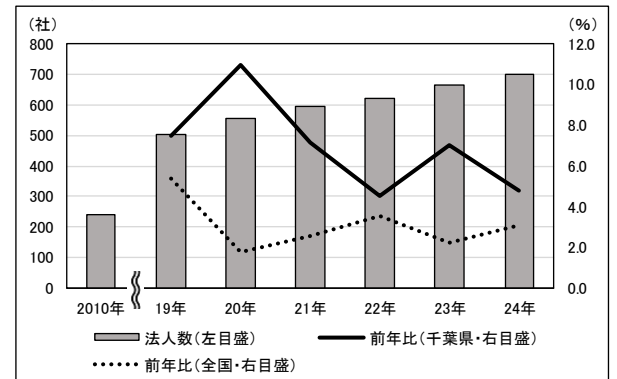
政府は、農業経営の大規模化やスマート化の推進などを通じた生産性の向上と消費者ニーズに応じた付加価値の向上に一段と力を入れるとしている。千葉県では、担い手減少など全国に共通した課題を克服しつつ、本県ならではの魅力や特色を活かした「強い農業づくり」を進めたい(下出)。

【図表1】基幹的農業従事者数推移(千葉県)



(出所) 千葉県の資料をもとに、ちばぎん総研が作成

【図表2】農地所有適格法人数推移(千葉県)



(出所) 千葉県、農林水産省の資料をもとに、ちばぎん総研が作成

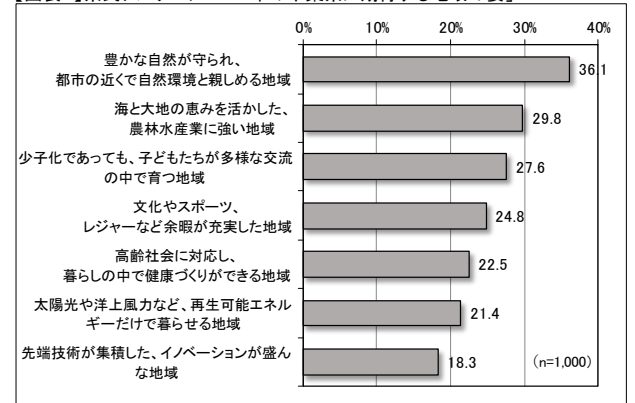
【図表3】農産物直売所、観光農園、農家レストランの販売額(23年度)

(百万円)

順位	農産物直売所	観光農園	農家レストラン
1	千葉県 57,041	山梨県 2,892	北海道 2,656
2	愛知県 53,725	長野県 2,310	三重県 1,837
3	埼玉県 50,998	千葉県 2,285	千葉県 1,626
4	熊本県 43,753	北海道 2,211	鹿児島県 1,539
5	福岡県 43,732	愛知県 2,084	宮崎県 1,489
	全国 1,126,420	全国 37,281	全国 39,434

(出所) 農林水産省「6次産業化総合調査」をもとに、ちばぎん総研が作成

【図表4】県民アンケート「2050年の千葉県に期待する地域の姿」



(出所) 千葉県経済同友会「千葉県の2050年の将来像」

¹ ふだん仕事として主に自営農業に従事している「基幹的農業従事者」の数